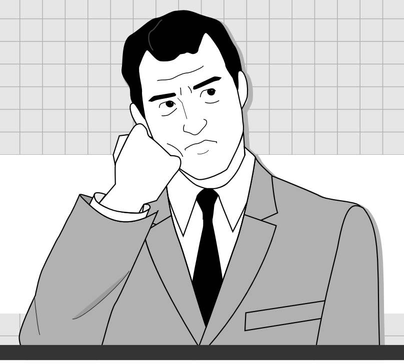


閑人閑語

誰でも博士の時代

● 猪飼 國夫 ●



● 中村教授の憂鬱

青色発光ダイオードの開発で一躍有名になった米国UCSB（University of California, Santa Barbara）教授の中村修二博士が，第2回Millennium Technology Prize（ミレニアム技術賞）を獲得し，2006年9月にフィンランドでその授賞式が行われた．賞金は100万ユーロで，中村教授が発明当時在籍していた会社との争いを決着して得た約8億円と米国Benjamin Franklin賞などを合わせると，かなりのお金持ちになった．

これは安い給料で使われている日本の研究者や開発技術者にとっては非常に喜ばしいことである．株主価値の向上とか言って株を転がしたり，口をきいたりするだけで途方もない収入が得られる現在の日本の社会では，負け組とさえ決めつけられている技術者にとって一つの希望の星でもある．

なお，Benjamin Franklin賞は2002年にカーボンナノチューブの発見で有名な飯島澄男博士も受賞しており，Novel賞への有力な階段とも言われている．

ところで，企業側や株ころがしで稼いでいる連中は，開発や発明などは簡単で，商品化や生産・販売こそたいへんなのだと，前世紀に終わった工業化社会の論理でものを言っている．開発・発明がなくて何が商品化だと言いたい．

この中村教授が以前米国University of Floridaに留学したとき，悟ったことがあるという．それは米国では学位（博士）を有していないと，技術者はテクニシャン扱いで，研究を行っている博士さまにアゴで使われてしまうということである．

中村教授は実際にすべての研究を自前で行っていたので，酸水素バーナーでガラスを封じ切る技術など，技能者として十分通じる腕前があったのが，かえってあだとなってしまったのだ．中村教授は帰国するや学位取得に励んだことは言うまでもない．

● 末は博士か大臣か

日本の学位制度は長らく欧州の制度を真似た方式を保ってきた．筆者の大学時代などは学位がない教授がごろごろいたし，学部長や学長にまでなれた．学位授与式で博士でない学長が博士の学位を授けるというのは滑稽だ，とまで言われても制度上は問題がなかった．

それは，博士の学位は市井の人でも学位請求論文が通れば授ける，という論文博士の制度が主だったからである．江戸末期に生まれた植物分類学の牧野富太郎博士は，小学校中退ながらこの制度のおかげで，東京大学で理学博士を取得した．

すなわち，その世界での重鎮にならなければ学位は取得できない，というのが通り相場だったのである．戦前，博士は大臣に比肩されるほど値打ちがあり尊敬されていたのである．

だから，日本では中村教授ですら学位なくして留学した．2002年にNovel賞を受けた島津製作所の田中耕一氏は，学位さえ有していなかった．Novel賞史上珍しいことであろう．

● ポスドクはフリータの元祖だった

戦後，日本にも米国流の課程博士制度が導入されたが，博士課程後期まで進む学生は長らく少数派であったので，企業に就職した研究者は論文博士を取得するのが普通であった．

実際に課程で学位を取得しても，大学の助手や国公立の試験・研究機関や大企業の研究所くらいしか就職口がなく，普通の企業は「小煩い」博士さまなど採用を遠慮していた．アルバイトで食いつないで研究を続けるポスドク（課程博士取得者）哀歌である．

大学が論文博士を審査するというのは，ある意味でサービスである．そのコストに見合うだけの代金を審査料として徴収していなかったからである．筆者もかなり値上がりしてから，学位申請を出したが，数万円で済んだ記憶がある．

● 日本での博士の学位取得状況

ところが，事情が変わってきた．大学の独立法人化である．米国の有力大学ではとっくにそうであったが，学位の販売は商売になるのである．各大学とも，社会人入学や通信課程の導入に務め，入学金と授業料合わせて国立大学で200万円近くの収入になる．社会人学生は論文博士と手間はほとんど変わらない．

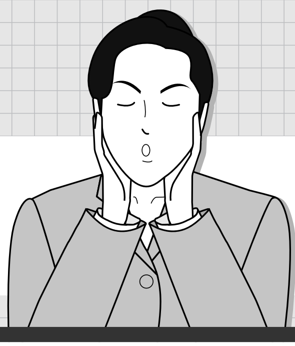
この傾向は当然ながら，学位の薄利多売に結びつく．すなわち，3年の博士課程後期のコースを飛び級で卒業させればよいのである．学会誌採録論文の必要件数もどんどん減らして，1件でいいという大学も出てきた．カンファレンスでの英文発表も不要という投げ売り状態である．かくして，二昔前の修士論文程度の出来で，博士が生産されることになりつつある．

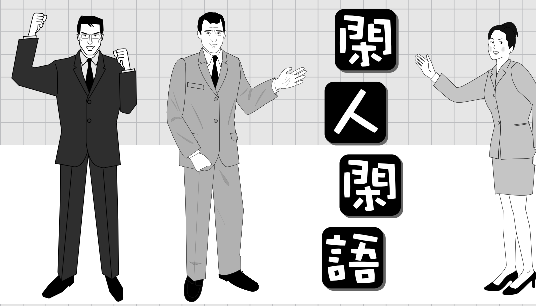
日本の大学院の状況は，文部科学省の統計によると，2005年度の大学院在籍者は約255,000人で5年前に比べて，25%の増加である．

ところが，大学院在籍者の増加の割には博士学位取得者は大幅には増えていない．1998年の国内における保健系（医歯薬など）を除く博士号取得者は6,575人（そのほか米国留学による取得者152人）である[注1]．国内の博士号取得者は1985年ごろから急速に伸びていたが，1998年でほぼ頭打ちとなり，2002年には農工理系の合計でも6,830人に過ぎない．

一方，統計方法が明確でないので，わが国の科学技術白書の国際比較には記載されていないが，韓国では同じく1998年に7,240

注1：文部科学省「科学技術白書」による．





閑人閑語

人の博士学位取得者がいると伝えられている．

● 中国の高等教育の急速な変革

中国は文系の人間は古来科挙の制度により，連綿と養成されてきた．19世紀になり旧来の人材育成方法だけでは不足し，西欧風の大学も順次設立された．理工系で有名な清華大学は20世紀に入ってからの設立である．

中国共産党が政権を取ってからは，大卒者には「分配」制度によって就職口は100%保証されていた．しかし，改革開放政策の下，就職先は国営企業だけではなくなり，一方，収入増に伴う高学歴指向を背景に大学生の数はうなぎ登りに増え続けている．

そこで，進学希望者の増大に伴って国として1999年から募集枠の大幅な拡大を図った．その結果，すでに2006年の高等教育の卒業生（中国の学校は9月始まり）は413万人に及び，その数は前年より75万人増加し，今後も毎年60万人ずつ増加するという注2．就職状況は氷河期などという生易しい状況ではない．「中国青年報」によると，教育部の関係筋は，すでに1,400万人もの職がない既卒者がいて，前年より100万人ほど増加している，と記者の質問に答えている．当然ながら就職に際し，より有利な大学院への進学者も同じペースで増加している．中国の大学生の就職事情を背景に修士や博士の量産が起こっているのだ．

統計によると1998年の中国における博士号取得者は6,775人（別に米国留学で2,378人）で，2002年には中国国内で14,706人の博士が誕生した，と伝えられている．

原理的に見てこのような大学生や大学院生の増加は，教員不足をもたらす．毎年2万～3万人の特設教員を増員し続けなくてはならない，と伝えている．その中でも，世界的に見て博士の指導ができる教員などは，速成できないのが普通だ．

このような背景下で進んだ博士の量産の結果，最近は多くの30代初めの技術者が，中国固有の「高級工程師」の称号ではなく名刺に博士と書くようになった．筆者も開発区を訪問の際，市政府の若手から博士と書いた名刺をたくさんもらった．博士量産の結果，「大学生去做工人，研究生去做職員，博士生去做技術員」注3という揶揄（やゆ）さえすでに飛んでいる．やっと博士号を取得しても学者にはなれないというのだ．

もちろん中国の特有の事情も大きく影響を与えている．大学の卒業証明の偽造などは日常茶飯事で，筆者も手伝ってきた政府開発援助（ODA）予算による情報技術（IT）技術者の日本への受け入れ研修事業でも，入国管理当局からこの点を何回も注意された．



贋（にせ）博士づくり

簡単に学位を出してもさほど気にしない雰囲気が漂っている．筆者が訪れた大学でも，ソフトウェア1本かハードウェア一つ開発すれば，学位を出してもよい，という発言が大学院の責任者からなされた経験がある．

現実として，中国には日本の10倍も人がいるが，科学系のNovel賞受賞者はまだ一人もいない．長年文学賞にノミネートされていた文豪「巴金」も2005年の秋に101歳で逝去した．

台湾や米国籍の学者にはNovel賞をはじめ世界的な賞を受けている人もたくさんいる．中国に学者がいないのか不足しているのか分からないが，博士の量産効果が出るのはこれからかもしれない．

● 悪貨は良貨を駆逐するか

米国原産の博士大量生産方式は，今や世界の工場と化した中国に定着中である．日本人もせっかく取りやすくなった博士であるから，どんどん取得して中村教授の悲哀を味わうことがないようにすればよいと思う．日本の文学博士のように権威者への称号だ，などと孤高を保つ必要はまったくない．

世界中で博士の称号が尊重されるのは，試験で取れないからである．一応研究の成果を他人に評価されないといけないという建前が守られているからである．その意味では，政治家や産業界が考えた日本独自の技術士などの称号は，中国の「高級工程師」と同じく，世界的に見て意味がないと思ってよい．

でも，博士とて中国製となると怪しい可能性はある．それに対抗するには，やはり中村教授のように世界的な賞を取るしかないかもしれない．

いかい・くにお　博士（工学）

注2：2006年6月1日「中国教育部」などの発表「関于切実做好2006年普通高等学校畢業生就業工作的通知」による．なお，「高等学校」は日本の高等教育機関に相当し，高校ではない．

注3：2006年6月2日「新聞眼」（http://china.com.cn/）より引用．なお，「做」は“成る”，「工人」は“労働者”，「～生」は“学生”および“卒業生”，「研究生」は“修士（博士前期）”の意．